



第 74 号

発行所

大阪市史跡
龍溪禪師墓所

靈龜山

九条院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第廿五代住職

奥田 啓知 (智證)

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

「お・も・て・な・し」

昨年末の「ユーロラン新語・流行大賞」の年間大賞4語の一つが、「お・も・て・な・し！」でした。

20年東京オリンピック開催招致の決め手となつた滝川クリスティルさんがPRした「おもてなし」という言葉が話題となり大賞に輝いたのです。プレゼンでは、流暢なフランス語で、訪れる人を慈しみ見返りを求める深い意味があり、祖先がずっと受け継いできたこの心で皆さまを温かく迎えたいと、日本の伝統的な「おもてなし」精神を紹介しました。

四国遍路では、巡礼者に対して金品を無償で提供する「お接待」が現在でも広く行われています。遍路は弘法大師そのものであり、遍路への接待は、大師に対するものとなるので、すたれることなく行われています。接待とは、禅語の「接待」からきてします。行脚僧に布施をする方法の一つで、門前などに水や茶をおいてふるまう門茶(かどちや)

とも呼ばっています。転じて、寺で食べ物などを貧者にふるまうことを行さし、今では単に客をもてなす意味で使われています。

鎌倉時代、北条時頼が執権職を退いたあと、身をやつして最明寺入道と名乗り、諸国行脚の帰途、上野国(群馬県)の佐野で雪道に困ったとき、佐野源左衛門尉常世が一族の者に所領を奪われて貧しいなか泊めたり、寒い外から来た僧のために、大目に育てていた梅、松、桜の盆栽を切つて火にくべて、栗のお粥でもてなした話が「もてなしの鑑(かがみ)」として能の「鉢木(はちのき)」に伝わっています。

「おもてなし」は西洋でも、ホスピタリティといい、イスラム世界ではディヤーフアといつて、ともに大切な人倫の一つとされています。見知らぬ者や旅行者を「客」として迎え、敬意をもつてもなすこと

し」を拒んだり、少ししか食べなかつたりするのは、相手を侮辱したことになるというのです。

他人を親切にもてなす。それはいいことですが、私たちはそれを他人はどう思っているか常に考えねばなりません。こちらが好意でやつたことでも、相手はそれを負担に感じるようでは小さな親切、大きなお世話になってしまいます。

京都人は「京のぶぶ漬け」といつて、なかなか帰らない訪問者が辞去しようとする、「まあお茶漬けでも」と引き止めます。これは外交辞令で、真に受けではありません。産経新聞のテーマ川柳に「おもてなし」という課題で、次のような川



波濤の夢

(龍溪禪師一代記) その十四

龍溪と隱元禪師⑪

（示寂そ の 後）

龍溪示寂の悲報が黄檗山に伝わると、隱元禪師はいたく嘆かれ、「隱元禪師年譜」によれば、禪師は龍溪の遺偈に和して、

忽見墨痕疑尽消

（忽ち墨痕を見て疑い尽く消す）

不孤生鐵鎔藤条

（生鉄の藤条を鎔るに孤かず）

臨行一喝全賓主

（行に臨んで一喝し賓主を全す）

涌起滔々四海潮

（涌き起つて滔々たる四海の潮）

と詠み、大衆（まわりの者）に「這の漢、白浪滔天の處に向いて一喝して便ち行く。謂つ可し、法の自在を得たり（龍溪は完全に正法を体得している。融通無礙の境地に達していると言うべきだろう）」と言つた。

龍溪のご遺体はその日のうちに、摂津富田にある、九島院の本寺である祥雲山慶瑞寺に移され、荼毘に付された。後水尾法皇も師の龍溪の亡くなれたことを聞かれ、嘆き悲しまれ、内殿に祭壇を設けて龍溪の御靈を祀られた。

高泉性澈が撰した『特賜正統禪師龍谿公大和尚御葬塔銘』には、法皇これを聞いて、「嗟惜し、御膳を減ずるもの数日、特に祭を内殿に賜ふ：法皇追思已まず。嘗て内府の金を出し：窪堵（卒塔婆・塔）を三か所造る。一は黄檗山萬松院の開山塔に真骨（遺骨）を埋め、二は正明寺に肖像を、一は慶瑞寺に衣鉢を納め、堂宇を建てた；且つ勅して毎歳諱日に必ず正明に就きて法事を修す」とある。

余談になるが、九島院は、昭和四十五年四月八日に『大阪市史跡』に指定され、山門前には「龍溪禪師墓所」と刻んだ顕彰碑が大阪市により建立されている。正確には、「龍溪禪師示寂地」とするべきで、墓地は萬松院の開山塔『天光塔』である。萬松院で真骨を埋められた。今綱と領が失われたとすれば、網や衣はその用をなさなくなる。これと龍溪の遷化を惜しんだ。今綱と領が失われたとすれば、網や衣はその用をなさなくなる。これと龍溪の遷化を惜しんだ。

寛文庚戌十（一六七〇）年八月二十三日に遷化した龍溪は、春秋を歴

死の至らんことを知つて、安住正終の時小病小恼、七日已前に豫められ、禪師がおられるることは、網が綱から

なつており衣に領があるようなものだ。今綱と領が失われたとすれば、網や衣はその用をなさなくなる。これと龍溪の遷化を惜しんだ。

一方、紫衣事件では師匠伯蒲和尚を補佐して江戸に下り幕府との斡旋、師匠遷化で妙心寺では孤立奮闘。また、隱元の妙心寺招請をしての臨済宗、ひいては仏法の興隆をめざすも頓挫。

隱元招請運動の同志たちとは離別。妙心寺から僧籍を剥奪され、行脚の僧となつても、高齢に鞭打ち江戸往復すること二十八回、艱難辛苦の末に京都宇治に黄檗山萬福寺を幕府により開創させた。大慧禪師發願文に「某甲臨命に見え、正覺の機を受け、法界に速念の末期自在に此身を捨て、了つて、終の時小病小恼、七日已前に豫められ、禪師がおられるることは、網が綱から

に見え、正覺の機を受け、法界に分身して遍く衆生を度せんことを：」とあるが、まさに龍溪は死に臨み迫りくる波濤の前に、發願文にあるような、生死を超えた融通無礙の世界を見ていた。

波濤の先に龍溪は何を見たのか：顧みると、龍溪の一生は波瀾万丈であった。東寺を出発点とするも、禅門に転じ臨済宗の僧となる。参禪辨道・晝三夜三日躬下の事を究明の最高の島院では、「開山龍溪禪師水定參百參拾忌」を記念して、京都大仏師松本明慶師に依頼、正明寺の開山



龍溪禪師 水定図

（おわり）

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

だるまさん、集めてます。ご不要なだるまさん（置物など）お寺へ譲つてください。

大阪市仏教青年会
花まつり子ども大会
日時：4月2日（水）
13時～16時
場所：クレオ大阪中央
(天王寺区上汐1-1-1)

参加無料
おみやげプレゼント

当院副住職が会長を務める大阪市仏教青年会。そこでの昔からの行事です。劇団カッパ座さんによる『たっくんの金メダル』という劇も鑑賞できます。入場無料。

春休み中の子供さんはもってこいのイベントです。先着200名様には写真入りキーホルダーをプレゼント。ぜひ、この機会をお見逃しなく！

（別紙参照）



四年間務めた黄檗宗第十二教区宗務支院の支院長を平成二十六年三月三十日付で退任する運びとなりました。この四年間で、様々な行事、法要などを取仕切つて参りました。この第十二教区支院とは、北大阪地区と大阪市内にある二十三もの寺院で構成されております。浅学菲才な小生ではあります。次期支院長は、淀川区西三国にある自敬寺住職服部隆志和尚が着任されます。（住職合掌）

黄檗宗第十二教区宗務支院

「黄檗宗第十一教区宗務支院」支院長を任期満了による退任

檀信徒の皆さんへ

行事報告

12/1

お寺de消しゴムはんこ

：参加者八名

はじめての開催。年賀状向けの消しゴムはんこ教室です。参加下さった皆様、時を忘れ消しゴムはんこに没頭されました。

12/31 坐禅と除夜の鐘：参加者五十名
地域の恒例行事となり、年々参加者が増えて賑やかに新年を迎えることができました。

行事予定

2/11 写経と精進料理の夕べ

3/23 3/29 4/8 4/15 5/17 5/17

：山門会（春のお彼岸法要）
：写経会 15時～ 参加費 千円
：花まつり甘茶接待（西区仏教会
九条駅前での甘茶の接待です。
昨年に続き3回目の開催です。）
：お寺deヨガ
：お寺deチャリティバザー

主催：大阪市仏教青年会
四天王寺客殿を利用しての写経会です。参加費三千円。

13時～
（別紙参照）

自家に眠つてる不要なモノ
を当院までお預け下さい

お寺deヨガと同日に、チャリティバザーを行います。
そこで、ご協力のお願いです。

☆申込受付中☆



永代供養墓

大龜地蔵尊

平成26年 年忌早見表

年忌早見表			
年忌	寂年	年忌	寂年
1周忌	平成25年	17回忌	平成10年
3回忌	平成24年	25回忌	平成2年
7回忌	平成20年	33回忌	昭和57年
13回忌	平成14年	50回忌	昭和40年

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

●永遠のゼロ●

正月 3 日、評判の映画『永遠の〇』を観てきました。今は時めく百田尚樹氏の小説を映画化したものです。今年の NHK 大河ドラマ『軍師黒田勘兵衛』を演じる岡田准一が主演をつとめています。

映画は、祖父「宮部久蔵」の事歴を調べるなかで「必ず家族のもとへ戻ってくる」との妻との約束を守るために、卑怯者・臆病者といわれても生還にこだわった零戦パイロットが、なぜ特攻隊に志願して戦死したのか？三浦春馬が演じる孫が、祖父の足跡を辿る物語です。

弊師弘忠和尚は、大谷大学文学部仏教学科を卒業後、昭和 17 年陸軍 2 等兵として応召されました。部隊は南方ラバウル方面に派遣されました。ご多分に漏れず和尚もこっぴどく殴られたそうです。たまたま小隊の古参兵が、大阪市立扇町商業卒で、和尚が市岡中学を出ていたことにコンプレックスをもち尽く苛められ、左耳の鼓膜が破れ聞こえなくなるほど殴られました。捨てる神あれば捨う神あり、幸い軍医が市岡中学卒で、診断書を書いてくれ庇ってくれたそうです。部隊はガダルカナル島への転戦しましたが、元大工と坊主の自分が位牌つくりと英靈の戒名書きで残りし、九死に一生をえました。また復員船では、今まで散々苛められた兵卒が上官たちに詰め寄り、土下座をさせて謝らせたそうです。戦後、これらのこととは和尚は心に秘めて決して語りませんでした。和尚は戦争を憎んでいました。軍人恩給も申請していませんでした。某市会議員さんの勧めでようやく恩給を貰うようになり、忘れていた兵隊時代を夢に見て、無意識のうちに布団を叩き続けていたと和尚から聞いたことがあります。

戦後 69 年、太平洋戦争を体験された方々の殆どが鬼籍に入られようかとする今日、戦争体験を伝えることが、平和憲法の是非が問われようかとする今日とても大事なことだと思います。

お国のために戦いと言いますが結局のところ、妻や子や身近な人達のためにこそ戦ったのです。「わたしには青春はなかった」とは和尚の口癖でした。



編集後記

▼「一年の計は元旦にあり」といいます。小生の元旦に作った漢詩です。

改歳乾坤瑞氣生
平成甲午賀新正

今朝揮筆一年計

無病息災禱太平

(歳が改まり大地にめでたい気が生じている)
(平成甲午の新年をお祝いする)
(元旦に筆を揮う一年計)
(無病息災天下太平を祈る)

▼年末年始の忙しさが一段落した 5 日愚妻が目まいで寝込みました。幸い 7 日にはなんとか平常に戻りましたが、3 匹のお犬さまの 3 度の散歩や一人食べる晩飯の侘しさ。家族一同の健康の有り難さを痛感しました。

▼自分の身体は自分だけのものではありません。家族のなかに一人でも一匹でも病気のものがいれば、皆が気に病み家庭が暗くなってしまいます。

▼弊師弘忠和尚は、「浜までは海女も蓑着る時雨かな」と頂いた生命の大切さと自愛を説いていました。

▼桃山学院高校の二年先輩のやしきたかじんさんも正月 3 日逝去されました。身体の不調を記した年賀状も多々受けられ、自分自身の置かれている立場を再認識する正月でした。

▼皆さま方も、どうぞこの一年、御身大切にご自愛下さい。自分の身体は自分だけのものではないですから。

▽大阪市仏教青年会の会長になつて半年。様々な会合に出席。人前での挨拶にも多少慣れています。

▽本年も様々な行事を開催しようと考えています。賑やかで楽しく、アットホームなお寺を目指します。

道路を駆け抜けます。
(副住職記す)

さ ん も ん え

山門会 (春彼岸法要)

3 月 23 日 (日)

午後 1 時半 より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません※
ご回向お申込み下さい。

清興: 和奏ユニット『蓮風RENPU』演奏